

研究結果報告書

日・韓文学における女性像の形象化
－谷崎潤一郎と金東仁を中心に－

所属： 又松大学校 日本学科
役職： 客員教授
氏名： 吉 美 顕

本稿では谷崎潤一郎と金東仁との影響関係を比較分析し、両作家の手法における共通点と相違点を浮き彫りにすることによって、それぞれの作品（「痴人の愛」、「金妍実伝」）に表れている美意識とエロティシズムによる女性像の形象化を明らかにした。その内容は次の通りである。

1) 谷崎潤一郎と金東仁

金東仁は1914年から1919年まで日本に留学し、日本語訳を通じて西洋文学に接し、また日本文壇の趨勢を間近に体験し、そこで得た知識を元に創作活動を行った。谷崎の作品に対する東仁の言及を読むと、東仁が谷崎に大きな関心を寄せていたことが分かる。谷崎の文学におけるモダニズム的モチーフの多くが、作家が傾倒した西洋文学の影響によって形成されたことは確かである。谷崎は官能的な女性の形成および悪魔的な女性＝強者の図式という独特の文学世界を作り出した。谷崎は日本文学の中に脈々と続くエロティシズムの伝統を継承し、官能の全的肯定の世界を描いている。一方でこのような背景のない風土の下で生まれ、成長した東仁の「美」の世界には限界が現れている。それは、東仁が文壇デビューした当時の朝鮮（韓国）が植民地時代であったことに起因する。しかしながら、日本の影響を吸収し、濾過した後で表出された東仁の文学世界は、独自性（狂暴的な美）を獲得しているということもまた明らかである。

2) 谷崎潤一郎にとってのモダンガールの意味

谷崎は「痴人の愛」で、モダンガールの登場による性の深淵を表現するために西洋的な女性を登場させている。「痴人の愛」では、河合は教育によってモダンガールという女性像を作り上げ、その女性を人形のように操ろうとしている。しかし、河合の教育によってモダンガールに生まれ変わったナオミは他者との交流（性関係）によって、妖婦的・悪魔的に変化し、河合を征服する強者になる。一方、河合はナオミに操られるマゾヒズムの至福に至るのである。

3) 金東仁にとってのモダンガールの意味

「金妍実伝」の妍実は、学校の教育や性関係によってモダンガールに生まれ変わる。妍実は性関係こそが恋愛であり、これが可能な人間は高等教育を受けた女性、即ち新女性だと思っていた。また、「芸術は恋愛だ」と考えている妍実は、文学を通して自由恋愛を実践し、それこそが女性解放であると信じる。さらに彼女は、旧制度を打破し、自由恋愛・自由結婚を通じて奴隷のような朝鮮の女人たちを救い出したいと考える先覚者でもある。ところが、妍実は性の深淵から道徳的に頹廃し、破滅していく。

4) 谷崎潤一郎と金東仁の文学に表れている女性像の共通点と相違点の分析

谷崎と金東仁は女性像の形成化のためにモダンガールという手法を用いているが、両作家の作品に表れているモダンガールの様相はそれぞれ異なる。谷崎にとってモダンガールとは、肌が西洋人のように白く、アメリカの女優に似た女性であり、男性の教育によって変わっていく女性である。金東仁にとってそれは、学校の教育を受け、自由恋愛ができる人間である。両作家において教育というのは共通の視点であるが、その視点の表れ方は多様である。谷崎はモダンガールであるナオミが男性との性関係によって、妖婦、娼婦へと変貌し、男性を征服する悪魔的な女性になることを通じ、「美しい者は強者であり、醜い者は弱者である」という美意識を見出す。金東仁にとっては、モダンガールの変貌は時代の反映（植民地時代）であり、社会という壁にぶつかって破滅していく存在である。しかし、男性との性関係によって女の主人公が変貌していくのにおいてはナオミと同じ様相を呈する。金東仁にとって、モダンガールを昇華させることは困難だったかも知れないし、また、芸術的文学の継続を欠く新開発地としての韓国文学に手法上の未熟さがあったことは否めないであろう。

本稿では研究の対象を女性像に絞ったが、このように両作家を比較することによって、韓日のそれぞれの美意識によるモダンガールという唯美主義の表現の一典型を見出すことに成功した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名：韓・日文学における女性像の形象化-谷崎潤一郎と金東仁を中心に-

発表者名：吉美顕 (ギル・ミヒョン)

会議名：韓国日本近代学会

日時：2014年5月17日 (土)

場所：韓国、東義大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名：韓・日文学における女性像の形象化 (Ⅱ)

-谷崎潤一郎と金東仁を中心に-

発表者名：吉美顕 (ギル・ミヒョン)

論文掲載誌：「日本近代学研究」

掲載時期等：2015年11月投稿予定

または、

論文掲載誌：「東北亜文化研究」

掲載時期等：2015年12月投稿予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)